

# 令和元年度 第1回 総合教育会議

令和元年6月18日(火)  
午後3時から5時まで  
県庁別館8階第一会議室A、B、C

## 次 第

### 1 開会

- (1) 知事挨拶
- (2) 教育長挨拶

### 2 議事

- (1) 国内外で活躍できる人材の育成
- (2) 子供の安全対策の強化
- (3) その他

### 3 閉会

# 令和元年度 第1回総合教育会議 座席表

日時：令和元年6月18日(火) 午後3時～5時  
 場所：県庁別館8階第一会議室A、B、C

(  
入  
口  
)

木苗  
直秀  
教育長  
○

川勝  
平太  
知事  
○

地域自立のための  
「人づくり・学校づくり」  
実践委員会  
矢野 弘典 委員長 ○

伊東 幸宏 委員 ○

小野澤 宏時 委員 ○

○ 渡邊 靖乃 委員

○ 藤井 明 委員

○ 加藤 百合子 委員

事務局

事務局

ビデオカメラ  
(固定)

○関係部局長

○知事戦略監

○教育部長 ○教育監

○知事部局・教育委員会事務局 関係課室長

(  
入  
口  
)

## 令和元年度総合教育会議 年間スケジュール（予定）

回数	開催日	協議事項
第1回	6月18日	<ul style="list-style-type: none"><li>・国内外で活躍できる人材の育成</li><li>・子供の安全対策の強化</li></ul>
第2回	9月3日	<ul style="list-style-type: none"><li>・確かな学力の向上</li><li>・ライフステージに対応した教育の充実</li></ul>
第3回	11月27日	<ul style="list-style-type: none"><li>・一人一人のニーズに対応した教育の充実</li></ul>
第4回	3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和元年度総合教育会議協議事項の事業化状況</li><li>・令和2年度協議事項等の決定</li></ul>

## 国内外で活躍できる人材の育成に関する論点

---

グローバル化が急速に進展する社会において、子供たちに豊かな国際感覚とコミュニケーション能力を育む機会を提供し、世界の中の静岡を認識し、国内外で活躍できる人材を育てていくことが必要である。

本県では、ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピック及び同文化プログラムが開催されることから、これらの国際イベントの開催を契機に、国際交流を通じた特色のある教育を推進することが重要である。

また、国内外で大いに活躍できる人材の育成に資するよう、県立高校においても、魅力ある教育環境の充実に取り組むことが重要である。

### 論点 1：国際イベントの開催に伴う国際交流を通じた特色ある教育の推進

ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 オリンピック・パラリンピック及び同文化プログラムなどの開催を契機に、国内外で活躍できる多様性のある人材を育成するために、具体的にどのような取組が考えられるか。

### 論点 2：県立高校における魅力ある教育環境の充実

県立高校において、国内外で活躍できる人材を育成するための教育環境を充実させるために、新たな学校、学科等の設置や学年・学級規模の在り方を含め、具体的にどのような取組が考えられるか。

## 実践委員会の意見の総括

### <論点1：国際イベントの開催に伴う国際交流を通じた特色ある教育の推進>

- ・ラグビー観戦に招待した児童生徒が、世界的イベントを途中帰宅することなく最後まで観戦できるようにするために、保護者へは帰宅時間が遅くなることを事前連絡の上、安全確保のために細かい約束事などをつくって説明し、理解を求めると良い。
- ・観戦を招待する児童生徒の中で、ラグビーに興味を持っている子とそうではない子を整理すると良い。また、子供たちに本物のスポーツとして観戦させたいのか、一方、ラグビーをたくさんの人に触れさせたいから観戦させるのか、その目的によって手法が変わってくる。
- ・最後まで観戦することは基本だが、身体の弱い子や習い事がある子など個別の事情を持つ子供がいるので、それぞれに配慮があっても良いのではないか。
- ・大会当日の運営状況を学ぶ場や、大会後に担当者から大会誘致や広報等の話を聞く場など、運営側からの視点を学習できる機会があると良い。

### <論点2：県立高校における魅力ある教育環境の充実>

- ・効果的な身近な国際化として、県内全ての県立高校に留学生を各1名受け入れてはどうか。課題としては、留学生を預かれるホストファミリーがなかなか見つからないことがある。また、教員の海外研修について、海外派遣数をもっと増やすことはできないのか。
- ・グローバル人材の育成はローカル人材の育成に繋がるので、生徒が自ら進んで地域活動を行うようにする教育が必要である。
- ・新構想高校への改編については、地元の意見を尊重し、実際に現場を見て、将来のためにどうあるべきかを考えて議論するべきである。
- ・スポーツ科の設置では、トップ選手の育成には充実した施設と優れたコーチが不可欠であるので集中的投資が大切である。観光科の設置では、県内の高校、大学、企業との縦の繋がりができると素晴らしい。演劇科の設置では、演劇科の生徒と普段演劇に縁の無い高校生との交流の場を地域でつくと良い。

## 国内外で活躍できる人材の育成に関する実践委員会の意見

### 論点 1 : 国際イベントの開催に伴う国際交流を通じた特色ある教育の推進

#### 小中学生のラグビーワールドカップ観戦に関する意見

- 観戦を招待した児童生徒が、帰宅時間が遅くなるといった理由で世界的イベントを途中退席することなく、保護者や地域、ボランティアの協力を得て安全を確保することで、試合終了まで観戦できるようにすることが大切ではないか。
- 子供たちの観たいという興味が大切である。本当に観戦したい子や保護者を招待しないと意味が無いのではないか。保護者には、事前に帰宅時間が遅くなるなどデメリットを伝え、理解してもらった上で招待しないと、誤解が生じるのではないか。
- 小中学生にとって、試合終了時刻が完全下校時刻を過ぎていることから、学校教育の中だけではなく、地域総がかりで教育をするという視点が必要であり、地域コーディネーター等が先生方と共同して引率することや、細かい約束事項をつくって保護者に確認を取ると良いのではないか。
- 招待する児童生徒の中で、ラグビーに興味を持っている子とそうではない子を整理すると良い。世界レベルの試合を観戦することで、世界を目指そうとする子供が出てくるので、参加する団体が興味関心を高め、最後まで観戦できる方法を保護者の了解を得て実施すると良いのではないか。
- ラグビーを観戦させる目的がぶれないようにすることが大事である。本物のスポーツを観ることが目的であれば、試合終了まで観戦して最後までやり切ることの大切さを参加者に伝える。一方、ラグビーをたくさんの人に触れさせることが目的であれば、途中退席しても帰りのバスで観戦できるようにしてラグビーを経験させるなど、目的によって手法が変わってくるのではないか。
- 最後まで観戦することは基本だが、身体の弱い子や習い事がある子など個別の事情を持つ子供がいるので、それぞれに配慮があっても良いのではないか。

- 滅多にない世界大会の運営のマネージメントを学ぶ機会として、大会当日に運営状況を学べる場や、大会後に担当者から大会誘致、広報、準備等について学べる場をつくるなど、運営側からの視点を学習できる機会があると良いのではないか。

#### 県内のスポーツ振興に関する意見

- 県内各地域で世界的なスポーツイベントが開催されている。世界のトップ選手のプレーや技術を見て、肌で感じることで子供たちは興味を持って好きになっていくので、それぞれの地域が持つスポーツイベントについても県で後押しして欲しい。

#### その他の意見等

- 国内外で活躍できる人材の育成という視点から、障害のある外国籍の児童生徒及びその保護者に対して、日本語サポートや日本で生活していく上で必要な知識や技術の習得機会を特別支援学校や特別支援学級のカリキュラムの中に組み入れていくことはできないか。

### 論点 2 : 県立高校における魅力ある教育環境の充実

#### 教育環境の充実に関する意見

- 留学生が一人学校に入ると化学変化が起こり、日本の高校生への大きな刺激となる。日本の高校で農業・工業・商業などを学びたいと希望するアジアの学生は多いので、効果的な身近な国際化として、普通科に限らず県内全ての県立高校に留学生を各1名受け入れてはどうか。ただ、留学生を預かれるホストファミリーがなかなか見つからないことが課題である。
- 世界はもっと多様であることを教員が知らないと言徒たちに伝える事ができない。多くの教員が海外に出て見識を広げるために、教員の海外派遣数をもっと増やすことはできないか。
- グローバル人材の育成は、ローカル人材の育成に繋がる。地域が自立できない側面があることから、学校は地域と一体でなければならない。生徒が自ら進んで地域活動を行うようにする教育が必要である。
- 新構想高校への改編については、色々な選択肢があって良いが、地元の意見を尊重して進めていくべき事項なので、紙資料をベースに話し合うのではなく、実際に現場を見て、将来のためにどうあるべきかを考えて議論を進めていくべきである。

## 新学科の設置等に関する意見

### 〔スポーツ科〕

- スポーツ科を設置する場合は、充実した施設と優れたコーチがいなければ全国のトップレベルにすることは難しいので、集中的に投資することが大切である。

### 〔観光科〕

- 県内大学でも観光に関する専門的なカリキュラムが始まっている。高校時代からの実践的な学びを経て、強い動機をもった生徒が県内の大学で更なる学びを深め、そして県内の観光関係の仕事に就いて静岡県の魅力を発信できるといった繋がりができると素晴らしい。

### 〔演劇科〕

- 今の学校教育では、人と違うことを考える若者を育てることは難しい。正解のない演劇を学ぶ場がもっと広がらないか。高校時代に世界第一線のアーティストと接することは意味があるのではないか。また、演劇科の生徒と、普段演劇に縁の無い高校生とが、演劇を通じて交流できる場を地域でつくと良いのではないか。

## その他の意見等

- 世界で活躍する子供を育成するためには、中学校から改革していくことが重要である。一芸に秀でた子の中学校3年間をどのように指導していくか、また才能のある子にどのように刺激を与えていくかが大切である。
- 最近では、演劇科を設置している大学が増えており、演劇の道に進みたい学生は最初から演劇科に進学している。そのため、他学部の学生は演劇をやっている面白い人たちと接する機会が無い。可能であれば「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」の中で演劇を授業として組み込ませてもらえたら良いのではないか。
- 高大連携について、静岡県には「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が設立されており、異文化交流での留学生の活用や、スポーツをとおした地域づくり、アートをとおした県内産業の活性化など、高校の観光科や総合学科等との連携をもっと進めていけるのではないか。